

環境経営レポート

2021年度

対象期間：2021年1月～12月

目次

1. 環境方針	P1
2. 組織概要	P2
3. 環境目標と実績・評価	P3
4. 環境関連法規制等	P13



アース製薬株式会社

アース製薬株式会社 環境経営方針

私たちアース製薬は「生命と暮らしに寄り添い、地球と共生」を基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

[基本方針]

- 1.コンプライアンス
環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。
- 2.環境に配慮した事業活動
環境に配慮した商品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
- 3.気候変動
省エネルギーやクリーンエネルギーの導入を推進する。
- 4.省資源
水資源の有効活用や廃棄物の抑制、リサイクルを推進する。
- 5.社員啓発
すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓発を行う。
- 6.地域社会
地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
- 7.情報開示
環境保全に関する情報開示を積極的に行う。
- 8.継続的改善
環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善する。

制定日 : 2007年5月7日
改訂日 : 2022年5月22日

アース製薬株式会社
取締役
常務執行役員 唐瀧久明

◆ 組織の概要

(1) 名称及び代表者

アース製薬株式会社

代表取締役社長CEO 川端 克宜

取締役常務執行役員 唐瀧 久明 …… エコアクション21代表者 (2022年3月26日就任)

(2) 所在地

本社 : 東京都千代田区神田司町2-12-1
 坂越工場 : 兵庫県赤穂市坂越3218-12 (研究所を併設)
 赤穂工場 : 兵庫県赤穂市西浜北町1122-73
 掛川工場 : 静岡県掛川市細谷字山合635-1
 Act Terrace : 東京都千代田区神田司町2-14-3
 その他支店等 : 35 事業所(詳細 別紙1参照) 合計 40 事業所

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 上席執行役員 生産統括部統括部長 久保 浩之 TEL 0791-48-8001

担当者 : 環境管理室 室長 上田 昌弘 TEL 0791-48-8001

(4) 事業内容

家庭用殺虫剤・生活用品等の製造, 販売及び輸出入

本社 : 本社機能, 虫ケア用品・生活用品等の商品企画・販売及び輸出入

坂越工場 : 虫ケア用品・生活用品等の商品開発及び製造

赤穂工場 : 虫ケア用品・生活用品等の製造

掛川工場 : 虫ケア用品の製造

Act Terrace : 虫ケア用品・生活用品等の販売

その他支店等 : 虫ケア用品・生活用品等の販売

(5) 事業規模 (2021年12月末日時点)

資本金 9,895 百万円

売上高 128,299 百万円

	従業員数	延床面積
本社	249名	4,439 m ²
坂越工場	451名	43,826 m ²
赤穂工場	145名	40,780 m ²
掛川工場	12名	7,904 m ²
Act Terrace	164名	3,669 m ²
その他支店等	418名	4,757 m ² (詳細 別紙1参照)
合計	1,439名	105,374 m ²

従業員には派遣、パート等を含む



(6) 事業年度

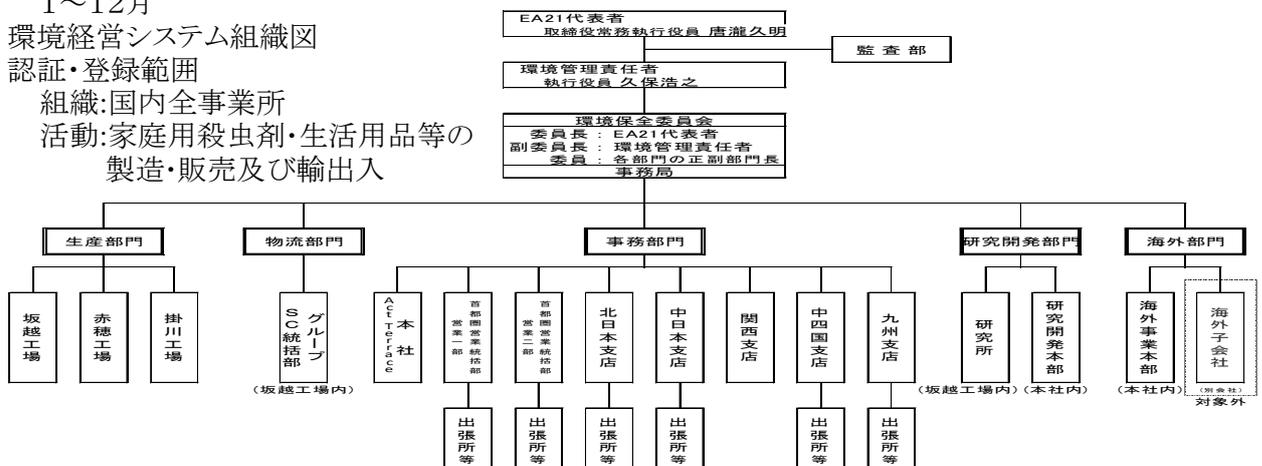
1~12月

(7) 環境経営システム組織図

認証・登録範囲

組織: 国内全事業所

活動: 家庭用殺虫剤・生活用品等の製造・販売及び輸出入



◆ 主な環境負荷の実績

項目	単位	2006年 [基準年度]	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)		6,700	7,269	6,292	5,361	5,448	4,647
廃棄物排出量	(t)	2,468	2,701	2,341	2,044	2,345	3,270
排水量	(m ³)	40,722	58,786	62,020	56,918	58,690	50,497

- ※ ・ 二酸化炭素排出量は各拠点の電力会社の調整後係数を採用)しています。
 ・ 排水量には、支店などテナントビルに入居する事業所は含みません。
 ・ 廃棄物排出量・排水量には、同一敷地内にある他企業の一部を含みます。
 ・ 廃棄物排出量は一般廃棄物と産業廃棄物の合計値となります。

◆ 環境目標とその実績

	2006年 [基準年度]	2020年 [前年度]	2021年			下段:[基準年度比]		
			目標	実績	目標達成率	2017年 [新基準年度]	2022年 目標	2024年 中期目標
(1) エネルギー 使用量の削減 (GJ)	147,651	130,522 [▲11.6%]	128,680 [▲12.8%]	131,721 [▲10.8%]	① 97.7%	134,040	131,936 [▲ 1.6%]	129,320 [▲ 3.5%]
(2) 廃棄物排出量 の削減 (t)	2,468	2,345 [▲ 5.0%]	2,181 [▲11.6%]	3,270 [+32.5%]	① 66.7%	2,701	3,179 [+17.7%]	3,120 [+15.5%]
(3) 節水 (水使用量の削減) (m ³)	100,410	103,394 [+ 3.0%]	98,847 [▲ 1.6%]	97,487 [▲ 2.9%]	① 101.4%	77,595	97,443 [+25.6%]	95,510 [+23.1%]
(4) コピー用紙 使用量の削減 (千枚[A4換算])	9,649	3,987 [▲58.7%]	3,820 [▲60.4%]	3,978 [▲58.8%]	① 96.0%	4,709	3,716 [▲21.1%]	3,650 [▲22.5%]

	2021年		2022年	2024年
	目標	実績	目標	中期目標
(5) 環境に 配慮した 事業活動	① 製品開発 ・ 環境配慮包材の 検討着手 6件	6件	・ 環境配慮包材の 検討着手 6件	・ 環境配慮製品の 開発推進 ・ 包材資材の減量化
	② 生産 ・ カイゼン提案 4,350件	4,467件	・ カイゼン提案 4,044件	・ 環境に配慮した 生産活動の推進
	③ 販売 ・ 社有車の燃費の 把握・周知	・ 3ヵ月毎に実施	・ 社有車の燃費の 把握・周知	・ 環境に配慮した 販売活動の推進
	④ 物流 ・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 24.2%削減 (2009年度比)	25.5%削減	・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 12.8%削減 (2017年度比)	・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 14.5%削減 (2017年度比)
(6) 化学物質 の削減	・ 生産工程で使用する PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 15.1%削減 (2010年度比)	28.2%削減	・ 生産工程で使用する PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 50.6%増加 (2017年度比)	・ PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 47.6%増加 (2017年度比)
(7) 社会貢献	・ 本社・工場周辺 清掃の実施	・ 本社は日常清掃 エリアとして実施 ・ 工場は周辺道路 まで毎月1回実施 (延べ約180名参加)	・ 本社・工場周辺 清掃の実施	・ 地域社会と連携した 活動の継続

- ※ ・ (1)エネルギー使用量について、
2021年度より二酸化炭素排出量をマーケット基準に変更したことを踏まえて、省エネなど取り組みの成果を評価するため、管理項目を二酸化炭素排出量からエネルギー使用量に変更しました。
 ・ (2)廃棄物排出量・(3)節水(水使用量)には、同一敷地内にある他企業の一部を含みます。

- (3)節水(水使用量)について、
支店などテナントビルに入居する事業所の水使用量は含みません。
工場では、製品の原料やボイラの蒸気発生にも水を使用しているため、水使用量と排水量に大きな差が生じています。
- (6)「化学物質の削減」について
環境方針「環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う」の一環として、(5)-①,②の推進と併せて取り組んでいます。
- 目標達成率は、次式で算出しています。
削減に取り組む項目((1)エネルギー・(2)廃棄物・(3)節水・(4)コピー用紙)

$$\text{目標達成率} = \frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} (\%)$$
- 2021年度目標及び中期目標は、生産品目の追加や増産、営業活動の増加の影響も考慮のうえ設定しています。(次ページ以降も参照)
- 2022年度より、2017年度を新たな基準年度と定め取り組みます。

◆ 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容



(1) エネルギー使用量の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・室温管理の適正化				☆	
・不要照明の消灯、昼休みの一斉消灯			☆	☆	☆
・OA機器の省エネモードの活用			☆		
・エコドライブの推進		☆	☆	☆	
・省エネ機器の導入	☆	☆	☆	☆	
・デマンドコントロール装置等の活用			☆	☆	
・カイゼン提案活動の推進		☆		☆	
・時間外勤務の削減、ノー残業デーの設定	☆				☆
・営業活動の効率化	☆				☆
・電力需給問題への対応	☆	☆	☆	☆	☆

② 達成状況

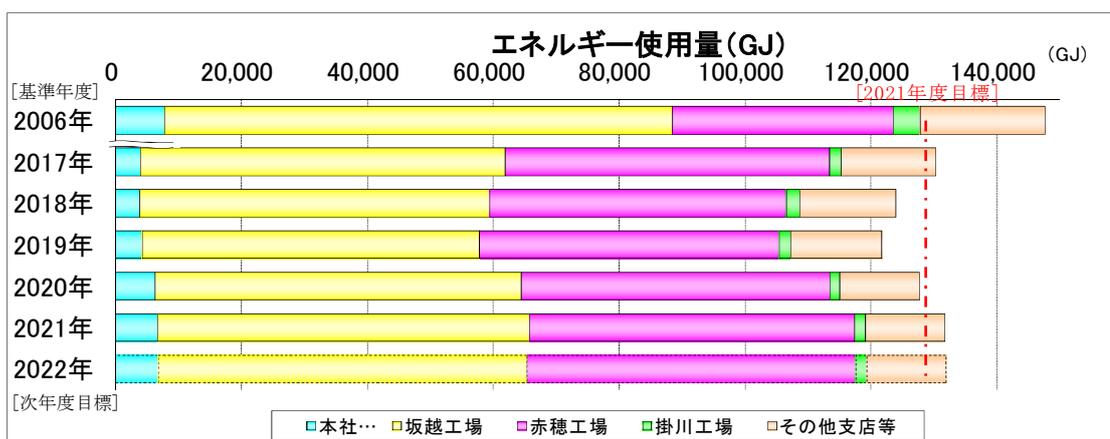
☆:重点的な取り組み項目

エネルギー使用量(GJ)

下段:[基準年度比]

	2006年	2020年	2021年			2017年	2022年	備 考
	[基準年度]	[前年度]	目 標	実 績	目標達成率	[新基準年度]	目 標	
本社 Act Terrace	7,824	6,353 [▲18.8%]	6,349 [▲18.9%]	6,709 [▲14.3%]	94.6%	3,975	6,803 [+71.2%]	2019年10月、首都圏営業統括部がActに移転
坂越工場	80,646	58,148 [▲27.9%]	57,922 [▲28.2%]	59,128 [▲26.7%]	98.0%	57,963	58,592 [+ 1.1%]	
赤穂工場	35,022	49,015 [+40.0%]	49,578 [+41.6%]	51,599 [+47.3%]	96.1%	51,492	52,187 [+ 1.3%]	2017年度よりモンダミン新工場が稼動
掛川工場	4,333	1,589 [▲63.3%]	1,922 [▲55.6%]	1,750 [▲59.6%]	109.9%	1,862	1,734 [▲ 6.9%]	
その他 支店等	19,827	12,595 [▲36.5%]	12,910 [▲34.9%]	12,536 [▲36.8%]	103.0%	15,019	12,620 [▲16.0%]	
総合	147,651	130,522 [▲11.6%]	128,680 [▲12.8%]	131,721 [▲10.8%]	97.7%	134,040	131,936 [▲ 1.6%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、生産品目の追加や増産計画がある赤穂工場、営業活動が増加するAct Terrace・支店等では、2022年度の目標は前年度の実績値より増加します。2022年度より基準年度を2017年度に変更します。



③ 評価(結果)

- ・ 2021年度は、2006年度比12.8%削減の目標を掲げて取り組んだ結果、エネルギー使用量は10.8%削減(前年度比0.9%増加)となり、目標を達成できませんでした。未達成の主な原因は、生産の増加および営業活動の増加によるものです。一方、2021年4月に赤穂工場の電力を再生可能エネルギー由来のCO2フリー電力に切り替えたことで二酸化炭素排出量は、年間801t-CO2の大幅削減を実現し、2006年度比30.6%削減(前年度比14.7%削減)となりました。
- ・ 工場では照明器具や動力設備などを計画的に更新しています。2021年度は照明783台をLED照明にし、トランス1台をアモルファスタイプに更新しました。機種を選定にあつ

ては、省エネ性能の高い機器を積極的に採用しています。

- エネルギーの「見える化」も進めています。工場では、生産ラインや設備ごとに、しかもリアルタイムに把握することで、効率的、効果的な省エネ活動が実施できると考え、坂越工場・赤穂工場・掛川工場・研究所において、電力使用状況などの「見える化」システムを導入しています。そのシステムを活用した社員参加型の省エネ活動の推進と定着を図るため、各部署から設備などに熟知したメンバーで構成する「省エネ推進委員会」を毎月開催し、改善内容を共有、展開することで、さらに大きな成果を創出できるよう取り組んでいます。今後、その改善事例をアースグループ各社に情報発信し展開することで、グループとしての取り組みも進める考えです。
- 電力需要平準化にも取り組んでいます。夏季・冬季の期間には、空調設備の利用によって電力使用が大幅に増加するため、効率的な運転や室内の断熱などの対策を行っています。
- また、東日本大震災以降、電力のCO₂排出係数や料金が高止まり傾向です。その影響を少しでも軽減するため、本社・ActTerrace、工場では電力会社、プランの見直しを行っており、今後CO₂フリー電力などの採用を展開していく計画です。



④ 次年度の取組内容

- 2022年度は、生産品目の追加や増産、営業活動による増加がありますが、照明や空調機など設備の更新、エネルギーの「見える化」システムの活用による省エネ改善等により、2017年度比1.6%削減(前年度比0.2%増加)を目標として取り組みます。

(2) 廃棄物排出量の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・ 分別方法の周知徹底・見直し	☆	☆	☆	☆	☆
・ 分別状況の確認		☆	☆	☆	☆
・ リサイクルの推進		☆	☆	☆	☆
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	☆	☆
・ 生産・販売の効率化(売残り品対策)	☆	☆	☆	☆	☆

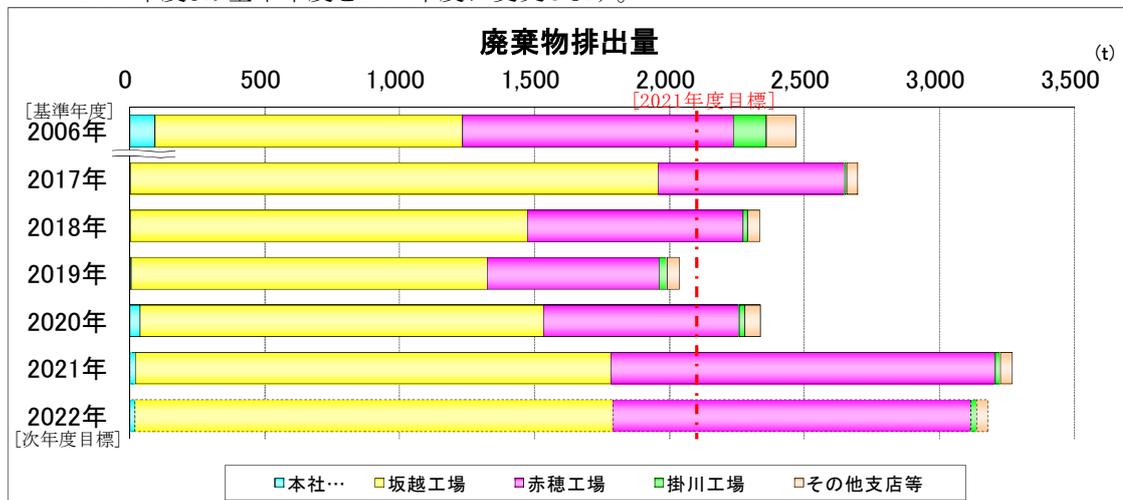
② 達成状況

廃棄物排出量 (t)

下段: [基準年度比]

	2006年	2020年	2021年			2017年	2022年	備 考
	[基準年度]	[前年度]	目 標	実 績	目標達成率	[新基準年度]	目 標	
本社 Act Terrace	93.8	38.4 [▲59.1%]	10.0 [▲89.4%]	21.0 [▲77.6%]	47.4%	2.3	20.0 [+787.1%]	2019年10月、首都 圏営業統括部がAct に移転
坂越工場	1,138.4	1,494.1 [+31.3%]	1,434.9 [+26.0%]	1,763.3 [+54.9%]	81.4%	1,956.3	1,770.1 [▲9.5%]	
赤穂工場	1,004.5	724.9 [▲27.8%]	674.1 [▲32.9%]	1,422.4 [+41.6%]	47.4%	689.8	1,326.1 [+92.3%]	2017年度よりモンダミ ン新工場が稼働
掛川工場	122.4	23.0 [▲81.2%]	20.3 [▲83.4%]	19.5 [▲84.0%]	103.9%	7.2	21.5 [+198.8%]	
その他 支店等	108.8	56.1 [▲48.5%]	41.8 [▲61.6%]	43.7 [▲59.9%]	95.6%	42.0	41.3 [▲1.6%]	
総合	2,468.0	2,345.5 [▲5.0%]	2,181.0 [▲11.6%]	3,269.9 [+32.5%]	66.7%	2,701.4	3,179.0 [+17.7%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。
2022年度より基準年度を2017年度に変更します。



③ 評価(結果)

- ・ 2021年度は、2006年度比11.6%削減の目標を掲げて取り組みましたが、32.5%増加(前年度比39.4%増加)となり、目標を達成できませんでした。未達成の主な原因は、廃商品関連の増加や入浴剤テストによる増加となります。
- ・ 産業廃棄物マニフェストについて、全拠点で電子マニフェストを導入し、管理の徹底と効率化を図っています。

④ 次年度の取組内容

- ・ 2022年度は、生産と販売の効率化、取引先との連携により、売れ残り品の発生を抑制するとともに、再資源化などで減量化も図り、2017年度比17.7%増加(前年度比2.8%削減)を目標として取り組みます。



(3) 節水

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・ 節水運動展開		☆		☆	
・ 取組内容の周知					☆
・ 給排水設備のメンテナンス	☆				
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	☆	

② 達成状況

水使用量(m³)

下段:[基準年度比]

	2006年	2020年	2021年			2017年	2022年	備 考
	[基準年度]	[前年度]	目 標	実 績	目標達成率	[新基準年度]	目 標	
本社 Act Terrace	1,624	2,591 [+59.5%]	3,000 [+84.7%]	2,704 [+66.5%]	110.9%	1,517	2,736 [+80.4%]	2019年10月、首都圏営業統括部がActに移転
坂越工場	83,165	23,025 [▲72.3%]	23,905 [▲71.3%]	23,855 [▲71.3%]	100.2%	22,589	23,702 [+ 4.9%]	2018年度は新規生産設備を設置
赤穂工場	13,314	76,441 [+474.1%]	71,650 [+438.2%]	70,601 [+430.3%]	101.5%	52,271	70,713 [+35.3%]	2018年度はモンダミン新工場が通年稼働
掛川工場	2,307	247 [▲89.3%]	292 [▲87.3%]	327 [▲85.8%]	89.3%	397	292 [▲26.4%]	
総合	100,410	103,394 [+ 3.0%]	98,847 [▲ 1.6%]	97,487 [▲ 2.9%]	101.4%	77,595	97,443 [+25.6%]	

※ 支店などテナントビルに入居する事業所は未把握

目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、前年度からのコロナ禍による出社制限を緩和を予定している本社・Act Terrace、生産が増加する赤穂工場では、2022年度の目標は前年度の実績値より増加します。2022年度より基準年度を2017年度に変更します。



③ 評価(結果)

- ・ 2021年度は、2006年度比1.6%削減の目標を掲げて取り組んだ結果、2.9%削減(前年度比5.7%削減)となり、目標を達成できました。
- ・ 節水活動とともに、漏水等の異常を早期に発見できるように、点検や水使用量の管理も徹底し、取り組んでいます。

④ 次年度の取組内容

- ・ 2022年度は、生產品目の追加や増産による営業活動の増加が見込まれるため、2017年度比25.6%増加(前年度比0.05%削減)を目標として取り組みます。

(4) コピー用紙使用量の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・ 不必要にコピーしない		☆			☆
・ 両面印刷・2アップ印刷の活用			☆	☆	☆
・ 資料の簡素化	☆		☆		☆
・ 配布部数の削減					☆
・ プロジェクタ・書画カメラ等の活用					☆
・ ペーパーレス化の推進	☆				☆
・ 裏紙の有効利用		☆	☆		
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	☆	
・ 個人認証印刷システムの活用			☆		☆

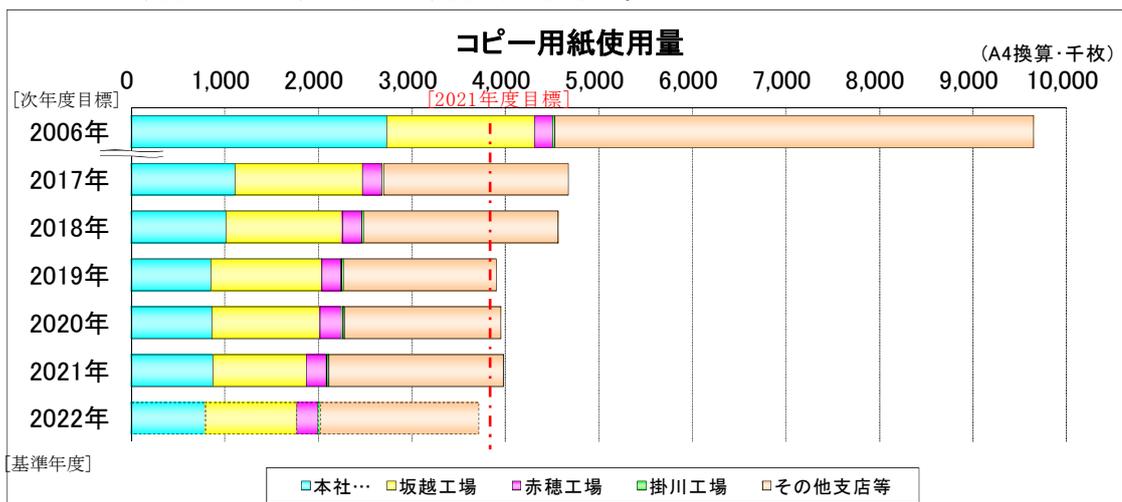
② 達成状況

コピー用紙使用量(A4換算・千枚)

下段:[基準年度比]

	2006年	2020年	2021年			2017年	2022年	備 考
	[基準年度]	[前年度]	目 標	実 績	目標達成率	[新基準年度]	目 標	
本社 Act Terrace	2,732.4	862.3 [▲68.4%]	842.6 [▲69.2%]	878.0 [▲67.9%]	96.0%	1,106.9	790.2 [▲28.6%]	
坂越工場	1,579.7	1,154.6 [▲26.9%]	1,142.6 [▲27.7%]	996.2 [▲36.9%]	114.7%	1,366.5	981.4 [▲28.2%]	2018年度は製品開発の人員が増加
赤穂工場	193.0	238.1 [+23.4%]	247.0 [+28.0%]	215.3 [+11.5%]	114.8%	202.5	227.8 [+12.5%]	2018年度はモンダミン新工場が通年稼働
掛川工場	20.0	24.0 [+20.0%]	24.5 [+22.5%]	24.5 [+22.5%]	100.0%	22.0	23.5 [+ 6.8%]	
その他 支店等	5,123.6	1,674.3 [▲67.3%]	1,563.8 [▲69.5%]	1,864.0 [▲63.6%]	83.9%	1,972.9	1,693.3 [▲14.2%]	
総合	9,648.7	3,986.6 [▲58.7%]	3,820.4 [▲60.4%]	3,977.9 [▲58.8%]	96.0%	4,709.2	3,716.1 [▲21.1%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、生産量が増加する赤穂工場では2022年度の目標は前年度の実績値より増加します。2022年度から基準年度を2017年度に変更します。



③ 評価(結果)

- ・ 2021年度は、2006年度比60.4%削減の目標を掲げて取り組みましたが、58.8%削減(前年度比0.2%削減)となり、目標を達成できませんでした。未達成の主な原因は、事務所部門での書類の増加です。
- ・ 両面印刷など印刷方法の改善、資料の簡素化や配布部数の削減、そして会議・ミーティング資料のペーパーレス化を推進しています。営業活動においても、タブレット端末の活用によるペーパーレス化を全国の拠点で実施しています。
- ・ また、コピー機・プリンタの印刷状況データ(両面や集約、モノクロ/カラー別の枚数等)を「見える化」し、社員啓発に活かしながら取り組んでいます。

④ 次年度の取組内容

- ・2022年度は、ペーパーレス化を一層推進し、2017年度比21.1%削減(前年度比6.6%削減)を目標として取り組みます。



(5) 環境に配慮した事業活動

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
i) 環境に配慮した製品開発		☆			
ii) 環境に配慮した生産		☆	☆	☆	
iii) 環境に配慮した販売	☆				☆
iv) 環境に配慮した物流		☆			

② 達成状況

		2021年		達成状況
目 標		実	績	
i) 環境に配慮した製品開発				○
・環境配慮包材の検討着手	6件	提案件数	6件	
ii) 環境に配慮した生産				○
・環境関連カイゼン提案	4,350件	提案件数	4,467件	
iii) 環境に配慮した販売				○
・社有車の燃費の把握・周知		3ヵ月毎に実施		
iv) 環境に配慮した物流				○
・輸送量当たりのCO2排出量	24.2%削減(2009年度比)	25.5%削減		

達成状況 ○:達成 △:未達成(達成率80%以上, 前年比で改善) ×:未達成(達成率80%未満, 前

③ 評価(結果)

i) 環境に配慮した製品開発

- ・容器・包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、詰め替え製品は、それ自体が省資源や家庭のごみ削減になると同時に、輸送効率も向上し、省エネやCO2削減にもつながります。このように、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識しながら3R「リデュース(減量化)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)」の視点で製品開発に取り組んでいます。また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品の拡充も図っています。
- ・このような環境に配慮した製品開発を推進するため、提案活動を実施しています。2021年度は環境配慮包材の検討着手を6件実施し目標を達成しました。お客様のニーズと環境への配慮を両立させたものづくりに取り組んでいきます。

ii) 環境に配慮した生産

- ・生産現場の無駄を自ら発見し、それを取り除く改善活動は長年「カイゼン提案活動」として実施しています。その仕組みを活用し、省エネや廃棄物削減、節水など、環境をテーマとした提案も募り、実行することで「環境に配慮した生産」に寄与しています。
- ・2021年度は、提案件数4,467件で目標達成しました。本活動は環境保全の取り組みに大きく貢献するとともに、社員のモチベーションアップにも繋がっており、今後も推進していきます。

iii) 環境に配慮した販売

- ・営業活動で発生するCO2の大半は車両の使用によるものであるため、これまで低公害車の導入やエコドライブの啓発によりCO2削減に努めてきました。2020年度から取り組みを開始した営業車毎に燃料使用量、走行距離、燃費を見える化・周知し、運転者一人ひとりにエコドライブを促す取り組みは引き続き継続しています。

iv) 環境に配慮した物流

- ・輸送時のCO2排出量を削減するため、継続的に物流の委託会社と連携を図り、輸送の効率化や物流拠点の見直しを行っています。
- ・2021年度は、輸送量当たりのCO2排出量が2009年度比25.5%削減(前年度比2.7%削減)となり、目標を達成しました。
- ・積載効率のアップやモーダルシフト*の拡大、物流拠点の最適化など、今後もより効率的な輸送に努めます。

※ 環境負荷のより小さい輸送を行うため、輸送手段を換えること。

④ 次年度の取組内容

- ・2022年度は、次の目標に取り組みます。

取り組み項目	目 標
i) 環境に配慮した製品開発	環境配慮包材の検討着手 6件
ii) 環境に配慮した生産	カイゼン提案 4,044件
iii) 環境に配慮した販売	社有車の燃費の把握・周知
iv) 環境に配慮した物流	輸送量当たりのCO2排出量 12.8%削減 (2017年度比)



(6) 化学物質の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・取扱量等の把握・適正管理			☆		
・生産ロスの低減		☆	☆	☆	
・カイゼン提案活動の推進		☆	☆	☆	

② 達成状況

	2021年			達成状況
	目 標	実 績		
工場	・生産工程で使用する PRTR対象物質の排出量・廃棄量 15.1%削減 (2010年度比)	28.2%削減		○

達成状況 ○:達成 △:未達成(原単位は改善) ×:未達成(原単位も悪化)

③ 評価(結果)

- ・化学物質は身の周りで数多く使われているとおり、日常生活に不可欠ですが、適正に管理する必要があります。当社の製品でも化学物質を使用しており、生産工程における排出や廃棄によるロスを減らし、それが製品に有効利用されるよう取り組んでいます。
- ・2021年度は、生産量の増加やテスト生産の廃棄もあり、対象物質の排出量・廃棄量は28.2%削減(前年度比39.3%増加)となり、目標を達成しました。
- ・今後も、研究開発部門と生産部門が連携して、製品の開発・改良と生産効率のアップの両面から削減に努めます。

④ 次年度の取組内容

- ・2022年度は、PRTR対象物質の排出量・廃棄量を2017年度比50.6%増加(前年度比3.3%削減)することを目標として取り組みます。

(7) 社会貢献

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象				
	本社 Act Terrace	坂越工場	赤穂工場	掛川工場	その他 支店等
・事業所周辺清掃の実施	☆	☆	☆	☆	



② 達成状況

	2021年			達成状況
	目 標	実 績		
本社 Act Terrace	・本社ビル周辺清掃の実施	・日常清掃として実施		○
工場	・工場周辺清掃の実施(1回/月)	・周辺道路まで毎月1回実施 (延べ約180名参加)		○

③ 評価(結果)

- ・2007年の取り組み開始以来、本社・ActTerrace及び工場周辺の清掃活動を継続して実施しています。また、坂越工場では全国交通安全週間中の年2回、周辺観光道路のカーブミラー清掃も行っています。本社・ActTerraceでも春・秋の年2回、千代田区定例活動「千代田区一斉清掃」に参加し、地元の小学校、町会、婦人会、企業の方々と共に活動しています(2021年春はコロナ禍で中止)。
- これらの清掃活動は美化効果だけでなく、社員の環境啓発にもつながっており、この活動の継続と展開を図っていきたいと考えます。

④ 次年度の取組内容

- ・ 2022年度も、これらの清掃活動を継続して実施します。

(8) その他の活動状況

① 社会とのコミュニケーション

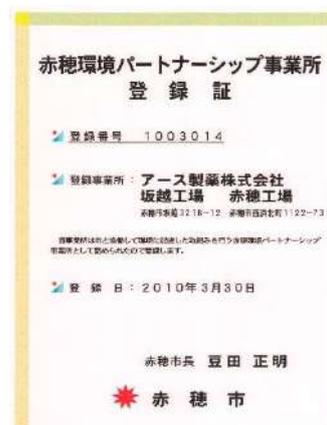
- ・ 地域社会の一員として地域コミュニティに根ざした活動を行い、ともに発展していきたいと考えてさまざまな取り組みを進めています。たとえば、本社・工場では近隣住民や学校、企業と合同で地域の清掃活動を行っています。
 - ・ 主力工場である坂越工場、赤穂工場はいずれも兵庫県赤穂市に立地しており、地元活性化の一環として赤穂シティマラソン等に協賛しています。また、兵庫県が中学生を対象に実施している就業体験「トライやる・ウィーク」、地元の学校での「出前教育」や「キャリア教育」にも協力しています。
- そして、工場見学は、当社の活動を社会や地域の方にご理解いただく貴重な機会です。2021年度は、56組414名のお客様に見学していただきました。
- ・ 今後もこのような機会には積極的に参画し、地域の皆様とのコミュニケーションに努めます。

② 地域社会と連携した取り組み

- ・ 坂越工場、赤穂工場は赤穂市と「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告を行なっています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガスなどの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、環境保全の推進を目的として赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」に加盟し、会員企業と連携した活動も実施しています。
- ・ また、本社・Act Terrace、坂越工場・赤穂工場が所在する東京都千代田区、兵庫県赤穂市と地域の安全安心で健康な暮らしに関する包括連携協定を締結しており、2021年12月には新たに兵庫県とも締結しました。
- ・ このように地元の環境保全等にも積極的に係わりながら、地域社会との共生を図っています。



[包括連携協定 締結式の様子:2021年12月23日]



[赤穂環境パートナーシップ 登録証]

③ グローバルにおける社会貢献活動への取り組み

- ・ 2021年5月には、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、参加企業として登録されました。事業を通じた社会貢献活動を国際基準で“見える化”するとともに、グローバルにおいても、アースグループのESG経営をさらに推進していきます。

[代表者による全体評価と見直し・指示]

・2007年5月に全社で本格的な環境保全活動を開始して約15年が経過しました。その間、本社・工場をはじめ国内すべての事業所で「エコアクション21」の認証登録を受けました。

・2021年度は節水、化学物質削減は目標達成できましたが、増産や業務増加等でエネルギー、廃棄物、コピー用紙が前年度比で増加し、未達成となりました。増加の明確な要因があったとはいえ、未達成という事実を真摯に受け止め、今後取り組んでまいります。一方、CO2排出量に関しては、電力会社から購入する電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替える取り組みを開始した、大幅削減を実現しました。気候変動については「省エネ」「再エネ」の両面に対応を進めます。

近年、生産品目の追加や増産、事業所の拡大など業務の拡大に伴い、環境負荷は増加傾向にあり、2022年度も増産が予定されていますが、運用、設備の両面で改善を図り、全体としては削減できるよう取り組みます。

・また、本社・Act Terrace、坂越工場・赤穂工場が所在する東京都千代田区、兵庫県、赤穂市とそれぞれ地域包括連携協定を締結するなど地域社会における取り組みにも積極的に寄与していく所存です。

2022年3月25日
EA21代表者 木村秀司

◆ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等 (関連条例を含む)	適用される施設等	適用される施設等					遵守状況
		本社 Act	坂越 工場	赤穂 工場	掛川 工場	その他 支店等	
大気汚染防止法	(ボイラ; 特定施設適用外)						遵守
水質汚濁防止法	洗浄施設, ろ過施設 規制基準・自主基準		○	○	○		〃
瀬戸内海環境保全特別措置法	排水量 50m ³ /日以上 規制基準・自主基準		○	○			〃
騒音規制法	圧縮機, 送風機, 重油バーナー 規制基準・自主基準		○	○	○		〃
振動規制法	空気圧縮機 規制基準・自主基準		○	○	○		〃
悪臭防止法	排気等		○	○	○		〃
土壌汚染対策法	土壌(形質変更時要届出区域)			○			〃
廃棄物処理法	一般廃棄物, 産業廃棄物	○	○	○	○	○	〃
省エネ法	エネルギー使用量 1,500kL/年以上 (原油換算)、貨物輸送量3,000万トン キロ以上の事業者	○	○	○	○	○	〃
地球温暖化対策推進法	〃	○	○	○	○	○	〃
フロン排出抑制法	空調機, 冷凍機	○	○	○	○	○	〃 <small>管理等はオーナー</small>
PRTR法	第一種指定化学物質(ホウ素・ペルメ リン・POEアルキルエーテル・DDVP等)		○	○	○		〃
家電リサイクル法	家電	○	○	○	○	○	〃
小型家電リサイクル法	小型家電	○	○	○	○	○	〃
自動車リサイクル法	自動車	○	○			○	〃
容器包装リサイクル法	容器包装		○	○	○		〃
浄化槽法	浄化槽			○	○		〃
下水道法	下水道	○	○			○ <small>何れか一方</small>	〃
消防法	危険物(重油・灯油・アルコール等)の取 扱い及び貯蔵		○	○	○		〃
高圧ガス保安法	高圧ガス(ガスボンベ等)の取扱い		○	○	○		〃
毒物劇物取締法	毒物・劇物の取扱い		○	○	○		〃

環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、法規等の違反はありませんでした。また、関係当局からの違反の指摘や訴訟等も過去3年間以上ありません。

○: 規制対象

事業所の所在地・規模

2021年12月1日 現在

No.	事業所名	所在地	規模		備考
			従業員数 (名)	延床面積 (㎡)	
1	本社	東京都千代田区神田司町2-12-1	249	4,439	
2	坂越工場	兵庫県赤穂市坂越3218-12	451	43,826	
3	赤穂工場	兵庫県赤穂市西浜北町1122-73	145	40,780	
4	掛川工場	静岡県掛川市細谷字山合635-1	12	7,904	
5	Act Terrace	東京都千代田区神田司町2-14-3	164	3,669	2019年10月 開設 営業本部・首都圏営業統括部
6	千葉駐在所	千葉県千葉市中央区新町24-9 千葉ウエストビル3F	14	158	
7	横浜駐在所	神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9F	10	104	2020年8月 移転
8	山梨事務所	山梨県甲斐市富竹新田1824	3	66	常駐者なし
9	松本駐在所	長野県松本市征矢野1-6-5	5	118	
10	水戸駐在所	茨城県水戸市千波町2402-6	12	113	
11	宇都宮事務所	栃木県宇都宮市中今泉1-22-22	6	94	常駐者なし
12	高崎駐在所	群馬県高崎市西横手町351-1	9	101	
13	埼玉事務所	埼玉県さいたま市北区宮原町1-853-8 ウェルネスキューブ大宮6F	11	154	常駐者なし、2019年10月 移転
14	新潟出張所	新潟県新潟市中央区上近江2-19-14	9	135	
15	北日本支店	宮城県仙台市青葉区上杉5-3-36 第三勝山ビル3F	29	274	2020年12月 縮小
16	札幌出張所	北海道札幌市中央区南一条西7-16-2 岩倉ビル3F	18	188	
17	青森事務所	青森県青森市八ツ役字矢作73-4	4	99	常駐者なし
18	盛岡駐在所	岩手県盛岡市中央通1-7-25 朝日生命盛岡中央通ビル8F	5	81	
19	秋田事務所	秋田県秋田市中通2-4-19 商工中金第一生命秋田ビル8F	3	59	常駐者なし、2018年10月 移転
20	山形事務所	山形県山形市七日町1-4-18 トラッドセブン2階D	4	46	
21	郡山事務所	福島県郡山市虎丸町5-8 さくらNTビル203号	4	36	常駐者なし、2021年3月 移転
22	中四国支店	愛知県名古屋市中区丸の内3-14-32 丸の内3丁目ビル8F	34	506	
23	金沢出張所	石川県金沢市鞍月5-181 AUBE 6F	11	83	
24	静岡駐在所	静岡県静岡市葵区黒金町59-6 大同生命静岡ビル2F	15	173	
25	津事務所	三重県津市大門6-5 三井生命津ビル3F	3	52	常駐者なし
26	関西支店	大阪府大阪市中央区大手通3-1-2 エスリードビル大手通8F	73	570	駐在所閉鎖 2020年12月
27	中四国支店	広島県広島市西区楠木町1-14-31	22	323	
28	山陰事務所	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル107号	4	53	常駐者なし
29	岡山出張所	岡山県岡山市北区下中野402-4	9	57	2020年9月 移転
30	小郡事務所	山口県山口市小郡山手上町4-17	3	42	常駐者なし、2020年7月 縮小
31	四国出張所	徳島県徳島市川内町加賀須野923	11	125	
32	松山駐在所	愛媛県松山市天山3-10-28 忽那ビル205号	3	54	
33	高知事務所	高知県高知市高須1-17-31 大塚製薬(株)内3F	2	20	常駐者なし
34	九州支店	福岡県福岡市博多区奈良屋町13-13	54	484	
35	長崎事務所	長崎県長崎市油木町11-5	3	37	常駐者なし
36	熊本事務所	熊本県熊本市辛島町3-20 NBF熊本ビル8F	4	73	常駐者なし
37	大分事務所	大分県大分市碩田町3-1-43	3	68	常駐者なし
38	宮崎駐在所	宮崎県宮崎市高千穂通1-6-38 ニッセイ宮崎ビル12F	4	72	
39	鹿児島出張所	鹿児島県鹿児島市城南町3-7	8	78	
40	沖縄駐在所	沖縄県那覇市久茂地3-15-9 アルテビルディング那覇5F	6	61	
計			1,439	105,374	